

佳作

ごみ拾い

茨城県 日立市立河原小学校五年 宮本 花歩

トングとバッグ、この二つは私が海に行く時に必ず持っていくものです。

なぜ、海に行くのにトングとバッグなの？と思うかもしれませんが。でも、それには理由があります。

私は一年前から海のごみ拾いをしています。

ごみ拾いを始めたきっかけは一冊の本でした。その本には、人間のすてたごみを食べて命を落としてしまった生き物の写真がのっていました。私はその写真を見てとても悲しい気持ちになりました。

私は「自分にも何かできる事はあるかな」と考え海のごみ拾いをするようになりました。

小さなバケツを持って海に行くと、今までは気がつかなかったのに、たくさんのごみが落ちていたことに気がつきました。小さなバケツはすぐいっぱいになってしまし、手では拾えないようなごみもた

くさんあります。

そこで、トングとごみ袋を入れた小さなバックをもって海に行くようになりました。

そのごみ拾いをきっかけに去年の夏休みの間、五十日間連続でごみ拾いを続けました。

学校が始まってからは毎日ではありませんが、ごみ拾いを続けています。でも、毎日拾ってもごみがなくなることはありません。ボランティア用のごみ袋もすぐにいっぱいになってしまいます。

ごみ拾いを始める前は本の中のごみの写真も話も遠い海の話だと思っていました。

でも、いつも遊びに行く大好きな海にも拾いきれないくらいのおたくさんのごみがあり、ビニールひもにからまって飛べなくなっていた海鳥にも出会いました。ごみの問題は、遠い海の話ではなく目の前の海で起こっている事なのだとなりました。

私とお姉ちゃんだけでは一度にたくさんのごみは拾えません。でも、ごみ拾いをしていると一緒に拾ってくれる人がいたり、「いつもありがとう」や「ごくろうさま」と声をかけてくれる人がいます。ごみ拾いを始めてくれた人もいます。

声をかけてもらったり「ごみ拾いをしたよ！」と

いう話を聞くと私はとてもうれしくなります。

こうして少しずつごみ拾いにきょう味を持つてくれる人が増えていってくれればいいなと思います。